

## 試聴会・訪問記掲載

### シマムセン ZANDEN フォノイコライザー試聴報告 (2020.9.13)

#### 1. はじめに

[前回7月17日の訪問](#)に引き続き、再度シマムセンでのフォノイコライザー ZANDEN Model 120 試聴の機会を持ちました。

#### 2. 使用機器等

ラインアップは、ほぼ前回と同様ですが、プリアンプとパワーアンプが替わっており、フォノイコライザーの比較対象にアキュフェーズの新製品 C-47 を使用します。

カートリッジ  
プレイヤー

Ortofon Cadenza Red  
TECHNICS SL-1000R



フォノイコライザー ZANDEN Model120



Accuphase C-47



プリアンプ

Accuphase C-3900



パワーアンプ

Accuphase A-25×2



スピーカー

B&W 800D3



試聴に使用した盤は、[高音質アナログ盤の音質評価と音源の位相チェック実験\(14\)](#)で  
使用した盤を選んでみました。

井筒香奈江「Direct Cutting at King Sekiguchidai Studio / ダイレクト  
カッティング・アット・関口台スタジオ」 JellyfishLB LBLP051 (写真左)

井筒香奈江「Direct Cutting at King Sekiguchidai Studio (DSD11.2MHz/1bit  
MASTER Cut)」 JellyfishLB LBLP052 (写真右)



ベルナルド・ハイティンク 指揮 ベルリンフィル

アントン・ブルックナー 交響曲第7番

BERLINER PHILHARMONIKER RECORDINGS KKC-1167/8



グレゴリオ・パニアグワ 指揮 アトリウム・ムジケー古楽合奏団

ラ・フォルア harmonia mundi VIC-20079



倍賞千恵子

愛と自然の歌 キングレコード SKA-104

### 3. 試聴の経過

今回、選択した盤は音源の位相チェック実験(14)で報告したとおり、最新の録音盤でも、位相に関する聴こえ方に違いがあったので、その再確認のためです。その後、ルームアコースティック面の改善を実施しましたので、シマムセンに出かける前に、再度試聴しましたが、結論は変わりませんでした。なお、今回追加した倍賞千恵子のレーベルは ZANDEN のリストにありませんでしたので、事前に試聴してみましたが、逆相の方の定位がしっかりしている印象です。

井筒香奈江の 2 枚の盤は、[シマムセン ZANDEN フォノイコライザー試聴報告 \(2020.7.17\)](#)では、RIAA の正相のみで試聴していますが、今回は、イコライザーカーブも替え、位相も反転してみることにしました。

井筒香奈江のダイレクト盤は、RIAA の正相からスタートし、RIAA の逆相、Columbia の正相と逆相、TELDEC の正相と逆相と切り替えていきましたが、いずれも、正相より逆相の方の定位が明確でボーカルと楽器の焦点があっています。カーブではどれが良いか、微妙なところがありますが、TELDEC でボーカルの英語の発音が分かりやすく、全体に落ち着きが感じられました。

ブルックナー 交響曲第 7 番の持参は初めてですが、イコライザーカーブも替え、位相も反転してみることにしました。RIAA の正相からスタートし、RIAA の逆相、TELDEC の正相と逆相を切り替えていきましたが、RIAA の正相と TELDEC の正相が、定位が明確でオーケストラの各パートの楽器の焦点があっています。カーブでは、RIAA ではややハイ上がりに感じられ、TELDEC の方に安定感があります。

ラ・フォリアは ZANDEN のリストでは TELDEC の正相ですが、このことの確認です。RIAA の正相からスタートし、RIAA の逆相、TELDEC の正相と逆相を切り替えていきましたが、RIAA の正相と TELDEC の正相が、定位が明確で、古楽器の音の焦点があっています。カーブでは、TELDEC で安定感があります。

倍賞千恵子は、自宅で聴くと逆相のようなので、その確認です。RIAAの正相から始め、RIAAの逆相、Columbiaの正相と逆相、TELDECの正相と逆相を切り替えていきましたが、いずれも、正相より逆相の方の定位が明確でボーカルと楽器の焦点があります。カーブではどれが良いか微妙なところがありますが、TELDECで音の落ち着きが感じられました。

ここで再び井筒香奈江のダイレクト盤に戻り、印象が変わっていないか確認の後、フォノイコライザーをModel120からアキュフェーズの新製品C-47に替えて試聴してみました。C-47のバランス出力では、2番ホットと3番ホットの切り替えがあり、切り替えてみますと、3番ホットの方が、Model120の位相反転の場合と同様、定位がしっかりし、ボーカルや楽器の焦点が合いました。

前回に比べて駆動アンプが替わっており、すっかりアキュフェーズの音になっていましたが、イコライザーカーブや位相の違いは聴き取れました。

予想外だったのは、イコライザーカーブを替えても、位相反転の効果が聴き取れたことで、自宅のシステムと同じ結果になりました。

イコライザーカーブのマッチングは、微妙なところがあり、高域から低域のバランスをポイントに判断するわけですが、スピーカーや駆動アンプやカートリッジその他ルームアコースティックの条件で印象は変る可能性があります、与えられた条件下で最適なイコライザーカーブを探すという試みはメリットがあります。

#### 4. まとめ

[シマムセン ZANDEN フォノイコライザー試聴報告 \(2020.6.9\)](#)、[シマムセン ZANDEN フォノイコライザー試聴報告 \(2020.6.24\)](#)と[シマムセン ZANDEN フォノイコライザー試聴報告 \(2020.7.17\)](#)同様、ZANDENのフォノイコライザーModel120は、今回試聴したような高音質アナログ盤の真価を発揮するには有用と判断されます。

なお、比較に使用したC-47も魅力的なところがあり、新製品としての評価が高いことが理解できました。

以上